

第 5 回会議でいただいた御意見等について

第 2 回から第 4 回までの会議で実施した、観光関係の事業者や団体への観光振興に関する意見聴取を基に事務局で課題等を整理し、今後の観光振興施策の方向性等について、第 5 回会議で議論いただいた。各委員からの主な意見については、以下のとおり。

【観光振興施策に関する意見・課題について】

- 県が観光施策を推進するために相応しい観光財源を調達することを考える際に、意欲を持った市町村との連携が非常に重要になってくるので、民間の団体等も含めた組織の整備が、特に体制強化という点では重要になるのではないかと。
- 県が観光を前に進めていくための予算が必要と言うからには、県民や観光客に納得していただける理由を整理していかなければならないので、財源確保に向かって、何がここで一番大事かを議論していかなければならない。
- 受入環境などの施策を考える際には、合わせ技などの工夫が必要。また、オーバーツーリズム対策などの不測の事態に対する施策も重要になるのではないかと。
- 県に限らず、時代に合わせて取り組まなければならない課題と、防災観光のように宮城県だからこそやらなければならない課題という分け方ができる。
- 課題整理は重要度と緊急度に分け、優先的に短期間で取り組まないといけないもの等に整理をしていくと、どこに力を入れてやっていくべきかが見えてくるのではないかと。
- 今回新たに出てきた課題、今までも取り組んできた課題を把握し、整理してはどうか。
- 想定される課題が誰にとっての課題なのか、分類の仕方を一工夫すると、その辺りが見えてくるのではないかと。
- 行政に対するお願いベースの意見が多く出てきたと思うが、行政がやるべき部分、民間がやるべき部分を、優先順位だけではなく、中長期的にも分けて考えるべきではないかと。

【観光振興施策の今後の方向性について】

- 震災復興等について国からの支援が終了し、現在の県の観光振興施策が縮小するとか、実施できなくなるかもしれないという懸念があるため、どう対応するか、今後検討が必要。
- 通常の観光予算では賄えないようなところなど、きちんと予算を確保していかないと、今後の県の観光の進め方にかなり影響が出てくるところを抽出しながら取り組むべき。
- 財源検討会議という流れの中で見たときには、その財源で取り組むことをはっきりと打ち出さないと、なかなか理解が得られないのではないかと。
- 観光の人材育成等、復興のため外部から支援をもらいながら実施している事業もあり、この支援が途切れると、観光の復興に影響が出てくるところを大事にして、県の目的を実現できるようなポイントを抽出していくのが大変重要なのではないかと。
- 観光産業の体制強化の人材確保が、長期的な目で見ても必要だと思う。行政など大きい単位で考えてしまうと、やれることが限られてくるので、ガイドやコーディネーターの人材確保、育成に力を入れることで、もう少し施策の自由度が上がるのではないかと。
- 実施主体がもう少し明らかにならないと、県が来期以降の観光戦略のどこに予算や人手を注ぎ込むのかが見えてこない。